

ミロ《アルバム 13》

地中海に面したスペインのカタロニア地方に生まれたミロは、二十世紀初頭にヨーロッパで吹き荒れたシュールレアリスムの運動の重鎮と目されている。ミロはスペインの英雄であるのみならず、ヨーロッパ全土における巨人であると言える。

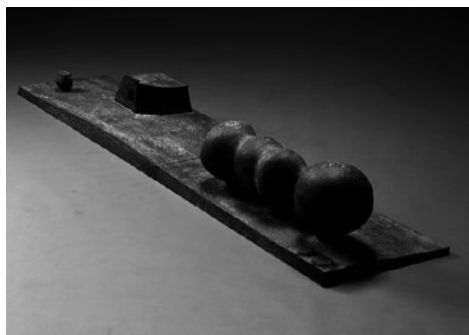
ミロの絵に現れる太陽、星、月、樹木、草、そして人や動物などのかたちは、あくまで

地中海の青さ、強烈な日差し、健康的で素朴な人々、広大な山岳陵を特色とするカタロニアの自然と密接にかかわりがある、と語られることが多いようである。



山本は、高校三年生の時に<イタリア現代彫刻展>を見て彫刻家を志し、将来イタリアに行くことを決意した。1968年からローマに留学してファッツィーニに師事、当地で見たイタリアの風景や古代エトルリアの遺跡などをテーマにした作品を制作するようになり、帰

国後発表した《追憶》で彫刻家としての地歩を固め、以後イタリアの自然や古代遺跡、アメリカ滞在時に目にした先住民族の遺跡などをモチーフにした風景彫刻を制作し続けてきた。《エトルリアの壺》は、第49回新制作展の出品作で、オリーブの木、古代遺跡などで構成された古代エトルリアに取材した典型的な風景彫刻の作例。



山本正道《エトルリアの壺》